

# 日韓市民ネットワーク・なごや

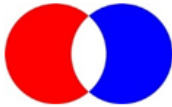
会報 No. 74  
2015-5-30

～日韓国交正常化50周年特集号～

Home Page : <http://home.n00.itscom.net/nikkan/index.html>

発行者：後藤 和晃  
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238  
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

事務局通信  
大邸・大田訪問団寄稿文  
お知らせ

統括幹事：後藤和晃  
会員の皆さん  
事務局

## 事務局通信 사무국 통신

事務局統括幹事 後藤和晃

### 1 水崎翁の墓守り徐一族の感激の春 ～韓国・大邸(テグ)市寿城池～

4月10日、韓国大邸市の寿城池の畔りにある”大邸農民の恩人”水崎林太郎翁の墓前で、これまでに例がない程、多数の日韓の関係者が集って水崎翁の追慕祭が盛大に行われました。



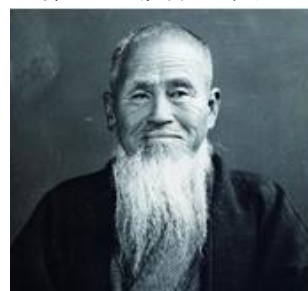
寿城池湖畔風景

水崎翁は今から100年前、岐阜の加納町から大邸に移住、現地の農民が毎年、水不足に悩んでいるのを見て、朝鮮総督府に働きかけ、20ヘクタールもの広さがある農業用貯水池、寿城池を完成させた人物です。彼はさらに水路を整備し、池の水で930ヘクタールもの水田や畑を開発しました。水不足の悩みを解消し、農業の発展のため多大な功績をあげた水崎翁は”大邸農民の恩人”と呼ばれるようになったのです。水崎翁は昭和14年(1939)に72歳で亡くなり、当人の言葉通り寿城池の横に朝鮮式の土盛り

の墓を造り、葬られました。以来76年が経過しましたが、水崎翁と親しい関係にあった徐(ソ)一族ら、現地の農民や地主らが、毎年春ごとに翁を称える追慕祭を取り行ってきました。ここ30年は、池の周辺の都市化が進み、農民の姿が年々消えてゆきましたが、徐一族の当主の徐彰教(ソチャンギョ)さんは「何としてもお墓を守る！」と墓の整備や追慕祭に力を入れてきました。

ところが墓守り役の中心人物だった徐さんが去年6月に81歳で逝去されたため、一時は追慕祭も絶えてしまうのでは…と心配する声もありました。

しかし徐さんの次男の輔健(ポゴン)さんや、その仲間の世代が「これからは若い世代で水崎さんの墓を守って行こう！」と話し合い、今年も立派な追慕祭が開かれたのです。



水崎林太郎翁



故徐彰教(ソチャンギョ)氏

今年は「戦後 70 周年」に加え「日韓の国交回復 50 周年」という節目の年にあたります。

それにも関わらず、両国の政府間の関係は戦後で最悪と言われるまま冷え込んでいます。追慕祭を開いた韓・日の関係者は、「交流が停滞しているのは政府間の話、いまこそ、われわれ民間が市民の交流をとことん盛り上げて行こう！」と勢い込んでいました。集った人数は。日韓あわせて 130 人にも上り、会場は終始熱気に包まれていました。

熱い旋風の中心にいた人たちを少し紹介しましょう。まず私たちの一行 19 人の中に水崎翁の曾孫小野裕美さんと息子で小学生の陽平君、裕美さんの弟の山口夫婦など水崎翁の子孫ら 4 人がいましたが、マスコミのインタビュー攻めを受けていました。

小野裕美さんは各社の取材に対し「これまでは、林太郎おじいさんの墓参りという気持ちで来ていましたが今回は違いました。永い間、墓を守って頂いた徐彰教さんが去年亡くなられ、そのお骨が、遺言でおじいさんの墓の一角に埋められたと聞きました。今回はぜひ徐さんに手を合わせなければ…と行って来たんです」と話し、一周を感動させていました。また徐さんの次男の輔健(ポゴン)さんもマスコミに、こう語ってくれました。「父は亡くなる前に自分の遺骨を水崎さんの墓地の隅の方に埋めさせてもらうよう遺言したんです。30 年もの永い間、水崎さんの墓守りをしていたんで、亡くなってからもきっと水崎さんの傍に居たいのだろうと思って遺言通りさせて貰いました」

小野裕美さんと徐輔健さんの話を聞いて「水崎翁の死後、76 年にわたって、その墓を守ってきた徐さん一族の善意に今度こそマスコミが焦点をあてるだろう」と思いました。

この点は後で触れる事として、当日集っていた多彩なメンバーを紹介しておきましょう。



日本側では別所浩郎駐韓日本大使、駐釜山の松井貞夫総領事、細江茂光岐阜市長、鹿児島陶工の第 15 代沈寿官氏、女優の大桃美代子さんなど、これ以上望むのは無理だと思えるようそうたるメンバーが顔を揃えました。

韓国側も、元駐日韓国大使で故徐彰教さんの親友だった呉在熙(オジェヒ)氏や、李普勲(イジンフン)寿城区長、韓日親善交流協会の李東根(イドングン)会長らに加え、映画女優やパンソリの名手までが駆けつけていました。報道機関も NHK のソウル支局長、塚本壮一氏を始め、朝日、毎日、西日本新聞など各社の記者、カメラマンが集結し、取材に奔走していました。事務局の後藤も過去 20 年余り、毎年のように追慕祭に参加しましたが、今回のように日韓の多数の報道機関が取材に殺到する姿は見た事がありませんでした。



別所浩郎駐韓日本大使の挨拶

お陰で、NHK が 4/11(土)、朝 7 時の全国ニュースで追慕祭を報道したばかりか、4/15(水)の朝 7 時の BS1 の企画ニュースの時間に”日本人の墓を守った韓国人”の話題を 8 分にわたって伝えてくれました。

一方で中日、朝日、西日本、毎日などの各新聞も、追慕祭を取り上げ、日本人の墓を守っている韓国の市民たちの働きを一斉に伝えました。放送と各新聞のお陰で水崎翁の故事は、岐阜の一部だけでなく、全国民に知られるようになってきました。本当に嬉しい限りですが、追慕祭の成功に浮かれることなく、日韓の学生、市民の交流を地道に継続することこそ、私たちの団体の使命だと考えています。

なお、追慕祭に参加した水崎翁の曾孫の小野裕美さんの感想を(6)ページに載せてあります。併せてお読みください。





参加者全員の記念写真（前列細江岐阜市長の左が小野裕美さん母子）



大邱大田訪問団全員



水崎翁の曾孫小野裕美さんと息子で小学生の陽平君  
徐さんの次男の輔健(ポゴン)さん



韓国 KBS の TV 報道





追慕祭が開かれる水崎林太郎さんの墓前で、李東根さんと父の思い出を語り合う徐輔健さんは韓国・大邱市で(中村清撮影)

# 枯らさない 日韓の友好



水崎林太郎さん



徐輔健さん

韓国南部の大邱に、岐阜県日加納町(現岐阜市)出身の日本人の墓がある。日本の植民地時代に現地の農業事情を改善した水崎林太郎さん(二八六八―一九三九)。日韓関係の荒波を越えて地元住民にも追慕祭が続いており、今年も十日にゆかりの人が墓前に集まる。



水崎さんは加納町長を務めた後、一九一五(大正四)年に開拓農民として大邱へ渡った。干ばつに悩む地元のため貯水池を造ろうと決意。「恩恵を受けるのは朝鮮人だろう」と語る日本人の役人や朝鮮総督府を説得し、現在の十層井に相

## 岐阜出身男性の追慕祭 父から継ぎ今年も

当する工事費を出させた。自らもスコップを握り、二七年ごろに約二十名の春城池が完成。水路も引き、九百坪の農地が開拓された。「池のほとりに朝鮮式で埋葬してほしい」という遺言で追られた墓は、日本の敗戦で家族が引き揚げた後、徐影教さんが地元住民が手入れしてきた。「な日本人の墓を守るのか」と批判もあり、水崎さんの功績を記した碑が壊されたことも。父親が水崎さんと親交があった縁で墓の管理を継いだ影教さんは「韓国へ」として日本統治時代は悪い記憶が多いが、水崎さんには感謝しなければいけぬ」と、九一年に韓国親交交流協会を設立。桜が美しく咲く四月を選り、追慕祭を毎年主催してきた。万葉集をそっくりのほど日本文化に通じ、両国の若者の交流にも努めた。影教さんが昨年六月に八十一歳で亡くなった。次男の輔健さんだけが遺志を継



NHKのTV報道(4月11日)



BS1のTV報道(4月15日)  
下記のURLから番組を見ることができます。

<http://wwinterface1.sakura.ne.jp/20150410tegu.htm>

## 2 望郷の大田(テジョン) 弘道塚参拝

4月10日、大邱で水崎翁の追慕祭を終えた私たち一行18人(残り1人は別行動)は、もう一つの目的地の大田に入りました。大田はソウルの南、100kmほどの所にある中核都市の一つで、一行のうちの久保孝造さん、辻醇さん、水上嘉彦さんら3人の生まれ故郷です。少し歴史を振り返ってみますと私たちの会は1998年2月に名古屋で発足しましたが、当初の会員、およそ40人のうち10人が敗戦後、大田から引き揚げてきた人たちでした。故郷、大田への愛着心の強い人たちが多く、そんな縁もあって会が発足した年に迎えた韓国の学生交流団は、大田の大学生たちだったのです。



大田の風景

戦後70周年、日韓の国交回復50周年という今年、私たちが20人近い訪問団を組織した背景には水崎翁の追慕祭に参加する一方、縁りの深い大田との絆も再確認したいとの思いがありました。

高齢化した会員とご家族の大田訪問を支援する他、日本人の大量の遺骨が眠る合同墓弘道塚に参拝、さらに旧知の大田の人々と交流しようとしたのです。

翌11日の朝、私たちは大田郊外の丘にある公園墓地

に弘道塚を訪ねました。墓地の入口にあった弘道塚は直径4~5mもある円墳様の立派な墓でした。塚の中には1500体以上の日本人の遺骨が韓国人の無縁仏と一緒に埋納されていると言われています。戦後、日本人の墓は他の都市同様、取り壊しとなったものの対日感情の良かった大田では、墓の下の遺骨を一ヶ所に集め、大きな合同墓を建設しそうです。



一行を代表して、大久保孝造さんが大きな花束を墓前に捧げ、お参りされた後、他の人々も次々と手を合わせていました。お参りした私たちは墓地の管理事務所を訪ねました。日本人の遺骨を弘道塚に埋納してもらったことへのお礼を述べると共に、刃物の街、関で購入してきた大きな草刈り鋏を「墓の手入れに使って下さい！」と進呈してきたのです。



弘道塚全景と参拝

その後、一行は大田市博物館となっている旧道庁に向かいました。この建物の内部には、戦前のある時期、大田から木浦（モッポ）へ向かう鉄道、湖南線の建設をきっかけに小さな農村が朝鮮有数の街に急速に発展して行く過程が、豊富な写真と資料で展示されていました。一行の一人、辻醇さんの祖父 辻謹之助さんや父 辻萬太郎さんも大田を発展させた有力経済人として写真つきで紹介されていて、公平な歴史観で展示物が制作されていることが印象的でした。

この日の夜、私たちは懐かしい大田の人々と会食を行いました。

招いたのは1998年に大学生交流団を名古屋に引率して来られた国際交流文化院の金珍培院長や文化院のメンバーで、その中には私たちの大田訪問を何くれとなく手助けして頂いた日本人の伊藤政彦さんもいました。他にも大田で有名な経済人でタクシー会社などを経営して

いる朴英圭（パク ヨンギョ）さん（86）にも来てもらいました。朴さんは戦前の大田中学で、私たちの会員で故人となった大久保舜司さんや中井康雄さんと親しかった同級生で「舜司さんの弟さんの大久保孝造さんが来るというのに顔を出さん訳にはいかんな！」ということで出席されました。

朴さんは年齢を感じさせない方で口角、泡を飛ばしながら、こんな話をされました。

「今は日韓もギクシャクしているが、こんなことではダメだ。そもそも日本や韓国、中国にベトナムという漢字文化圏だった4国が力を合わせれば、これ位、強力な連合はない。その力でアメリカやロシアなどアジアの国々をうまく利用しようとする強大国の干渉をはね返さなければダメだ！」

「大久保舜司さんや中井康雄君とは本当に仲が良くて、よく遊んだものだ。あの世に行ったら、また2人に会えるのが楽しみだよ！」このようにして大田の人々と乾杯をくり返し会話を重ねて絆を深めてきました。この大田訪問の感想を辻醇さんが短歌の形にまとめて頂いているので（10）ページでご紹介します。



訪問団と握手する朴英圭さん



会食風景



## 大邱・大田訪問団参加者の寄稿文

4月に大邱と大田を訪問した方々のうち4人から感想文を届けていただきました。そのうち小野裕美さんは大邱の寿城池を造った水崎林太郎翁の曾孫です。

辻醇さんは戦前の大田の発展に大きく貢献した経済人辻謹之助の孫にあたります。

辻家は戦前、大田を中心に朝鮮各地に出店し、自分の工場で生産した味噌、醤油などの販売を行っていました。そればかりか豚や鶏の飼育から住宅地の開発、家の建設まで手広く商売をしていました。今回、辻醇さんは私たち一行と大邱・大田を訪問された後、戦前、辻家の経営に中心的な役割を果たした韓国人で故人の李永生さんの消息を訪ねて、全羅南道の中心都市・光州市まで足を伸ばして来られました。

李永生さんは、戦後の光州で、なんと私たちの団体と交流を重ねてきた光州 YMCA の創立、育成に係わった人でした。光州 YMCA は、韓国の革新的な勢力を主導する重要な組織の1つです。1980年には光州で革新的な市民学生が蜂起し、政府軍と対決した光州事件が勃発、李さんはその際も、大きな役割を果たしたため、投獄された経験もあります。

李永生さんは戦前、辻家の人から重用されていた恩義を忘れず、辻醇さんの、ご両親が住む京都の家を訪れたり、便りを度々寄せていたそうです。

今回、私たちの要請を受け、辻さんを李さんの墓地や遺家族の家まで案内していただいたのは、永年の交流がある光州 YMCA の丘昌煥理事長でした。心から感謝すると共に、光州 YMCA との縁も大切にしていきたいと考えています。また、辻さんの短歌の背景には、辻さんのご両親と韓国人李永生さんの温かい交流があったことを念頭に置いて読んで頂くようお願いします。

### ●水崎林太郎追慕祭を終えて

小野 裕美

曾祖父水崎林太郎の追慕祭に、今年は例年とは少し違う気持ちで行きました。

去年の6月に、永年、お世話になっていたソ・チャンギョ（徐彰教）先生がお亡くなりになり、お墓参りを！と思っておりましたが、ようやく手を合わせることができました。

大邱を訪れるたび、ソ先生は温かく迎えてくださっていました。5年前に行ったとき、林太郎のお墓までの両脇に植えられた桜を見ながら「大きくなるといいなあ！すばらしい桜並木にしたい」とおっしゃられていたのを思い出します。

そして今回満開の桜を眺めながらお墓まで行くことができました！

ただお墓を守るだけでなく、皆に知ってもらえるよう曾祖父の功績を紹介する掲示板まで整備していただいたソ先生のお心使いに感謝してもしきれません。



小野裕美さん母子と弟ご夫婦



今回は100人以上の参加者だったと思われます。ありがとうございました。

報道陣も多く、大変びっくり致しました！ソさんの次男のポゴン氏へ、先生へのお悔やみとお礼を伝えました。ポゴン氏は水崎先生のおかげに感謝しながら今後も引き継いで墓を守っていくと握手を交わしました。日韓問題もありますが、この追慕祭は友好関係の広がりを指して

いるのだと思いました。式の終わりに、亡き人の霊を招き、慰めるという太鼓と舞がありました。

踊りのクライマックスには、突然さわやかな風とともに、桜が霧のように舞い散り、とても幻想的でした！きっとソ先生のおもてなしだったのでは！？と心が和みました。

式の後にはシンポジウムが開催されました。寿城池は元々あった池という説もあったとか。そうではないことなど面白い話も聞けました。

日韓、なかなか同じ方向へ進めないのが現状ですが、私達の時代はお互い理解しつつ、友好関係に繋げなくてはいけないと思います。林太郎翁も日本人だから朝鮮人だからという考えの人ではなかったと思います。ソ先生も同じだと思います。

### ●水崎林太郎翁追慕祭に参加して 河合 真樹

4月10日大邱の寿城池湖畔で開催された水崎林太郎翁の追慕祭へ参加しました。今回は終戦70周年、日韓国交正常化50周年という節目の年にあたるため多くの参列者が追慕祭に訪れていました。この日はとてもお天気が良く、真っ青な空にピンクの桜がとてもきれいでした。式典の最後に鎮魂の舞が行われ、終盤に差し加かったところで突然、桜の花吹雪が舞い散りました。それは、それは綺麗で、多くの方が水崎林太郎翁を偲び集まったことが嬉しくて桜をちらせたのかなぁ？なんて思いました。

この追慕祭の様子を Facebook から情報発信しました。その記事を見た韓国人で現在日本の大学で経営学の教授をしている友人から電話が掛かってきました。



墓前に集まった方はそんな方ばかりだと思います。友好関係が広がりますように！

報道関係ではNHKさんをはじめ多くのメディアに紹介していただきました。

それはこの会の後藤さんのご尽力のおかげです。報道ばかりではありませんが。

インタビューをしばしば受けました。TVでも2度の放送、新聞掲載、岐阜市長にもおこし頂きました。

後藤さんおつかれさまでした！ありがとうございました！

まだまだお世話になりますよ(^)/

今回は、久しぶりに大田を訪問した皆さん共々、20人近いメンバーで参加できました。皆様のおかげで盛大な式となりました。お忙しいところ、ご参加いただき心から感謝申し上げます。



彼女は大邱の出身で、子供のころから寿城池は遊び場であり、憩いの場所だったと話していました。娯楽の少なかった昔、お母さんたちは寿城池で集まってはおしゃべりを楽しみ、子供たちは池のほとりで遊んだと懐かしそうに話してくれました。

子供の頃は戦後の食糧難でいつもお腹を空かせていたので、学校から帰ると田んぼで男の子がカエルを捕まえて、焼いた足をもらって食べていたそうです。

その思い出深い寿城池が日本人の手によって作られたものだと知った彼女はとても驚き、当時の記録を調べ、今回の追慕祭の記事とともに友人、知人に送り知らせたそうです。

水崎林太郎翁の追慕祭により、日本人の功績が韓国の人たちにも知ってもらえる良い機会になったと思いました。



## ●大田訪問

## 村越 稔

大田はかつて名古屋韓国学校で教わった白先生の故郷で、授業中に話が出てきて1度行ってみたい、と思っていました。今回訪問して科学博が開かれたり、イザというときのためにソウル庁舎の1部がバックアップで作られたりして（日本人はこの危機感が乏しい）大きな都市（広域市）でした。日帝時代に浦南線建設のために多くの日本人が住み着いて大きくなった町であると知り、エンジニアだった自分としても当時の人達の苦勞、努力を偲んで弘道（共同）塚をお参りしました。しかし大邱の水崎氏のお墓と違い、こちらは諸事情から静かにお参りする必要があり、大切に管理されている職員の方に感謝しました。

管理センターの周辺は墓地公園で、伝統の土饅頭・十字架・木・銘板等色々な形でのお墓が



光州博物館（旧道庁）

裏山の頂上に向かって作られ始めており、渡来文化研究のテーマとして修士論文にまとめた長野の大室古墳と似た様子に、やはり大室古墳は渡来人の文化なのでは、と改めて感じました。

墓参後、かつて道庁だった建物の中にある資料館を見学しました。案内された学芸員の高（コ・ユンス）学芸研究士は、日帝時代の写真ハガキの蒐集から大田の街並みを再現する研究をされており、資料館の1コーナーには今回参加した辻さんの父親・祖父が営まれた醸造業の工場、屋敷を紹介するコーナーを設けられた。

そうした日本人の功績を称える展示に反対する上司に対して「日本人がかつて振興を推進した歴史的事実をきちんと現代に伝えることが正しい」と説得して展示したものです。

言いつけ外交位しか能がない国の代表者もこういう日本人のお陰で今の韓国があること、一方嫌韓の醜い言葉しか吐けない1部の連中も、こういう立派な韓国人がいることを知るべきです。1万数千年前の寒冷期、大陸・半島から



辻夫妻 高氏 伊藤先生

我々の祖先が渡って来た。その後も多くの相互支援があって今の両国がある。「正しい歴史認識」なくして一人前の人間にはなれないでしょう。

大田の大学の伊藤政彦助教授に今回訪問の仲立ちをしていただき、移動するバスの中から色々日帝時代の名残の施設の説明を受けて、大変勉強になりました。お礼申し上げます。

高麗大院生のソン・チヒョン嬢もソウルから参加しました。彼女は韓国に親しみを持つ日本人に、その理由や考え方を聞いて論文にまとめる研究をしており、4月来日したときに拙宅に泊めて、富士箱根に案内しました。皆さんにもインタビューするかもしれませんが、ご協力をお願いします。彼女の研究成果は日韓親善に大いに役に立ちます。

参観が終わり、全員が「モダン大田」という立派な写真ハガキ集の本をいただいた。

高氏がその後書きを書いているので以下ご紹介したい。彼の文章は単に日韓友好というレベルより、もっと高い次元で古い写真を見つめ、我々は今後どうすべきか、思考されている。かなり哲学的で意味が深く、その中から比較的分かりやすい部分を抜粋します。（国の代表者に読ませたいものだ。一方で日本の博物館の紹介資料にこういう内容が書かれているか、残念ながらはなはだ疑問）

記録は歴史とは違う。それは歴史の名前あるいは時間の形跡だけだ。その痕跡が見せる過去は果たして事実とどれほど一致するのか。それで歴史はあくまでも史実だけで事実にはなれ



ない。その限界が現在生きていく私達をもう少し謙遜で省察的にさせる。



辻家を紹介する高さん

大田の近代写真ハガキは主に 1930 年代と 1940 年代、消えたか今では薄れた大田の昔の姿を見せる。この時期の写真ハガキが少ないことは、大田が京城と釜山、大邱のような伝統都市と違って鉄道布設と共に作られた '新興都市' であったためだ。大田最初の市誌と言える田中麗水が書いた "大田発展紙(1917)" によると二十世紀初め大田は "寂莫な寒村にすぎなかった"。急激な発展をたどって大田が今の広域市程に該当する '府' に昇格することは植民地後半の 1935 年の事だ。

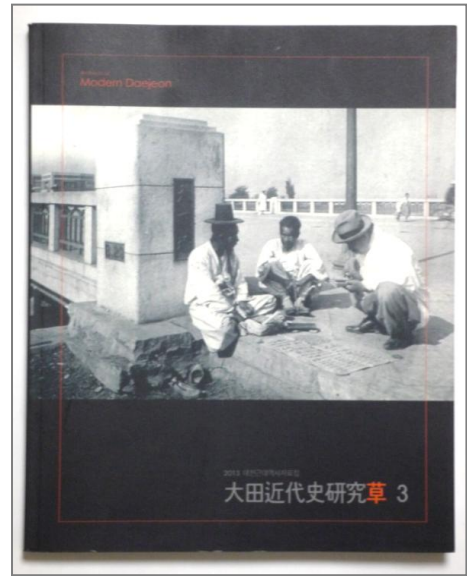
すべての記録物にはそれを生産した主体の政治的意図が含まれている。最も個人的で内密な記録の日記さえ私達は型を意識して書く。また事実的な記録の写真を撮るときも、シャッターを切る瞬間、私達はその小さい四角のフレーム中に強調と排除の意志を込める。厳密な意味の歪曲だ。そのような意味において人間が残したすべての記録は、不可避に歪曲されるほかない。私達はしばしばそれを '再現の政治学' または近代においては 'オリエンタリズム' 等の概念を通してフィルターにかける。

1940 年の夏日、ひとしきり夕立ちが過ぎたあと、清涼な春日町通りを歩く大田中学校学生気分を私達がどのように知るべきか。



1930 年頃の大田の街風景

1932 年ストライキ争議で暇ができた軍の製糸工場の女工が故郷へ行く列車内で、車窓に映る自身の顔を見てどっと涙があふれ出た、その悲しさを私達がどのように感じる事なのか。すべて過去は白紙投票で残るだけだ。



モダン大田・写真集

近代都市大田の歴史を 1904 年京釜鉄道布設を起点に置いて考えるとき、大田は今や 100 年を経た都市だ。しかし都市の歴史は国家の歴史より長い。この都市に生きていく私達は今でも毎日のように多くの問題の中で生きていく。そしてその問題の大部分は、近代に作られたことだ。更に言えば私達は 100 年前とほとんど同様な空間で統一した問題を抱いて生きていく。

大田 100 年を振り返って、100 年後の未来を作っていくのは、今この瞬間である。私達に残した名前に絶えず現代的意味と行動を応える一つ一つなのだ。このような具体的なながらも省察的な意識は私達が大田近代写真ハガキを通して得ることができる唯一の教訓だ。私達はすべて近代の子息なのだ。

(注) 省察：反省して考えること

(日本語辞書にもありますが、知りませんでした)



現在の大田の街風景



大邱

かささぎの低く飛びあり

花びらの薄くおおいし土盛り墓の辺

桜ひら舞しきる中 追慕の儀

鐘鼓ひびきて老一人舞う

木芽吹きて薄みどり氣にけぶりたつ

畑うるおしし池は 公園の景

岐阜の人の半生をかけし農業池

日韓友好のシンボルたりぬ

田畑の為 造成されし用水池の端

土盛墓の上の散りざくら美し

韓の春は樹々の芽吹き薄みどり

さくら・れんぎょう・もくれんも美しく

大田

車窓に見る夕陽浴びたる故郷や

終の墓参に思いふけおり

山影は昏くなりゆく故郷の街

なお夕映えて陽の沈みゆく

大田の日韓の様子 忠実にと

旧道庁舎は 近代史館なる

戦前の大ヒバもある中流家

内壁を除き喫茶店なる今 (大田春日町辺)



寿城池湖畔全景



光州国立墓地



故李永生氏の墓地

七才の記憶の山容は変えゆけど  
宝文山はわが家墓所たり

戦後三十年 生地訪ねて幾度か  
変えゆく大田よ、さようなら

光州

半生を光州民主化に尽しし人  
国立墓地での誇りある眠り

鎮もれる墓苑 鶯正調に啼く  
民主化の志士称うるが如

わが家族の一員の如き李大人の  
長の高誼に額ずき参りぬ

(光州の故李永生氏の墓参)

二〇一五年四月九日〜一三日

棋醇







光州の街風景



宝文山の展望台からの大田の街風景

## ◆大邱学生訪問団の奈良旅行をご支援下さい！◆

私たちの会は4月に大邱で開催された水崎林太郎翁の追慕祭に全力投入（19名参加）し、追慕祭の成功の一翼を荷いました。この夏は大邱にある国立慶北大学の学生交流団（総勢14~15）を名古屋に迎え奈良1泊旅行をプレゼントした後、3泊4日のホームステイを引き受ける計画を立てています。

引率してくるのは、私たちとも係わりの深い慶北大学の考古学の教授、朴天秀（パク チョンス）さんで、日本にもファンの多い人です。朴教授は水崎翁の墓を守ってきた故徐彰教さんとも親交が厚く、今年の追慕祭でも日韓の古代における交流の親密さについて講演されました。このように縁りが深い大邱から交流団を迎え、日本側の学生も交え、20人ほどで奈良旅行をすると、20数万円の実費がかかります。大変恐縮ですが会員の皆さん方のご芳志をいただき、奈良への旅行を実現させたいと願っています。

奈良旅行の意義は繰り返し申し上げてきました。端的に言えば、日韓交流史に全く知識がない韓国の若者でも、ひとたび奈良を訪れると、古代における韓国と日本の結びつきの深さを実感するだけでなく、日本の文化や日本人そのものの特質や深さを理解してくれるようになるのです。そして同行した日本人学生との交流も、そこから始まります。ぜひ、同封の振替用紙を使い、ご寄付を少しずつ送って頂きますようお願いいたします。

### 大邱学生交流団・来日予定

- 8月6日（木） 午後2：30セントレア着～ バスで奈良へ ～奈良ユース泊り
- 7日（金） 8：30ユース発～ 平城宮跡～ 東大寺（昼食）～ 法隆寺～  
名古屋国際センター ～ホスト宅泊り
- 8日（土） ホストと自由行動 ホスト宅泊り
- 10日（日） #夕方交流懇親会 ホスト宅泊り
- 11日（月） ホストとセントレアへ ～セントレア発～ 帰国



ゆうちょ銀行

会の口座名 日韓市民ネットワーク・なごや

口座番号 00830・4・36485



朴天秀教授 追慕祭での講演



昨年の高麗大学訪問団（東大寺にて）





알림  
お知らせ

# 日韓国交正常化50周年シンポジウム

## 講演とパネルディスカッションと交流懇談会

**日時:**7月11日(土)13時30分受付 14時開始～

**場所:**名古屋国際交流センター

**主催:**日韓親善協会と愛知民団

**懇談会:**テーマ「日韓の相互理解をどう進めるか？」

※会員もパネラーで出席します。

**ぜひご参加を!**



編集部

### 継続は力なり！を実感 後藤和晃

今年は大邱で水崎翁の追慕祭が盛大に開催されました。その背景には追慕祭の継続に尽力した故徐彰教さんに共感し、永年、参加を続けてきた私たちの会を始め、福岡、鳥取など日本からの参加者の地道な努力が実を結んだこともあったのでしょうか。

「継続は力なり！」という言葉は、1998年2月に私たちの会が発足して以来、陰に陽に応援を頂いている鄭煥麒さん(民団最高顧問)からの贈り物でした。

18年目を迎えた日韓市民ネットは、これからも日本人と韓国人が出会い、友情を結べるような場を提供し続けていけたらと考えます。追慕祭では事務局の後藤も、式典後のシンポジウムで水崎翁の経歴と功績を15分間に、わたって紹介しました。その最後には、これからも墓を守ろうと決意を示した大邱の皆さんに感謝の気持ちを述べました。少々、気恥ずかしいですが、その時の写真です。



編集 応援(非会員) 中川修介